

科目名	言語聴覚障害総論 V						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2020年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	1. 言語聴覚士に必要な知識について、概要を口頭で説明できる。 2. 国家試験対策への取り組みを通して、継続して取り組む姿勢を身につけることができる。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○	その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				過去3年分の国家試験問題集を8巡終える	
	○	○				過去問題の選択肢ごとに○×の理由を説明することができる	
	○	○				国家試験セミナーを通して理解を定着し個々学生の対策ノートを作成する	
テキスト・教材 参考図書	言語聴覚士国家試験過去問題集/セミナー資料を利用する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	言語聴覚士過去問題集の取り組み方についてのオリエンテーション				資料をもとに理解を深めておく(60分)	
	2	国家試験模擬試験実施				試験内容に復習をする(60分)	
	3	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する(60分)	
	4	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する(60分)	
	5	国家試験模擬試験実施				資料をもとに理解を深めておく(60分)	
	6	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する(60分)	
	7	国家試験セミナー				セミナー内容について復習する(60分)	
	8	国家試験模擬試験実施				資料をもとに理解を深めておく(60分)	
	9	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する(60分)	
	10	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する(60分)	
	11	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する(60分)	
	12	国家試験対策グループワーク				本日のワーク内容について復習する(60分)	
	13	国家試験模擬試験実施				試験内容に復習をする(60分)	
	14	九州統一模擬試験実施				試験内容に復習をする(60分)	
15	卒業判定試験				試験内容に復習をする(60分)		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)模擬試験を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬試験	○	○				60%
	小テスト	○	○				20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	臨床技術学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2	時間数	60時間	担当者	三田 智巳		
実施年度	2019年度	実施時期	通年(後期)	実務家教員 担当科目	言語聴覚士として病院勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年						
授業概要	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	目標	
	○	○				検査・評価・診断の内容を根拠をもって選択し説明することができる。	
	○	○				言語聴覚障害に関わる疾患の病態について説明することができる。	
	○	○				治療目標や計画立案の内容を根拠をもって計画し説明することができる。	
	○	○	○	○		臨床実習後OSCEを通して自分の課題を知り説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	プリント資料を使用します。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	言語聴覚療法の実際について振り返り/臨床実習後OSCEについて説明			配布資料の内容について30分程度復習しておくこと		
	2	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	3	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	4	臨床実習報告会実施			本日の発表内容について2時間以上調べ学習		
	5	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	6	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)			検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む		
	7	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	8	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	9	臨床実習後OSCEの実施			自主練習を2時間以上行う		
	10	臨床実習事後セミナー(検査について)			自主練習を2時間以上行う		
	11	臨床実習事後セミナー(評価について)			自主練習を2時間以上行う		
	12	臨床実習事後セミナー(診断について)			自主練習を2時間以上行う		
	13	臨床実習事後セミナー(訓練内容について)			自主練習を2時間以上行う		
	14	臨床実習事後セミナー(リハビリテーションにおける言語聴覚療法について/ICFの考え方を土台にして)			配布資料の内容について1時間程度復習しておくこと		
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で実習報告発表を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(実技テスト)	○	○	○	○		40%
	宿題・レポート	○	○				20%
	発表	○	○		○		40%
履修上の注意							

科目名	臨床実習						
科目名(英)							
単位数	12			時間数	480		
実施年度	2020年度			実施時期	通年		
対象学科・学年	言語聴覚学科 3年次						
授業概要	臨床実習指導者の指導の下、言語聴覚士としての心構えと基礎知識、基礎技術を臨床の場で体験し学習する。本学科臨床実習では、担当症例を通して、情報収集・評価・言語聴覚療法計画立案・言語聴覚療法実施および記録報告等の一連の言語聴覚療法を実践する。						
授業形式	講義:	演習:	実習: ○	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
実習目標	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○	○	○		(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解する。	
	○	○	○	○		(2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本態度を学ぶ。	
	○	○	○	○		(3)学内にて習得した知識・技能・態度を統合して臨床に適用し、言語聴覚療法の評価診断および訓練・指導・支援の技能を習得する。	
テキスト・教材参考図書	実習手引き、事故防止対策マニュアル、必要資料を随時配布する						
実習計画	実 習 内 容						
	1						
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	臨床実習Ⅰ(4週間) 2020年5月25日～6月25日					
	8						
	9	臨床実習Ⅱ(8週間) 2020年7月6日～8月29日					
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	臨床実習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点を7割 臨床実習期間中における学校評価項目による、評価点を3割 臨床実習成績報告点7割の重み付けは、4週間が3分の1、8週間が3分の2とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	上記参照	◎	◎	◎	◎		100%
履修上の注意							